

新年のごあいさつ

秩父市長 久喜 邦康

新年明けましておめでとうございます。市民の皆さまにおかれましては、新春を穏やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

国は、誰もが家庭や職場、地域で輝ける「一億総活躍社会」の実現を目指すとし、「希望を生み出す強い経済」「夢をつむぐ子育て支援」「安心につながる社会保障」という新3本の矢を発表しています。

当市においても、市民の皆さまとともに「日本一しあわせなまち」を創り上げていくため、市長就任以来、さまざまな取り組みを行ってまいりました。特に、WHOが推奨するセーフコミュニティの国際認証と中学校区では日本初となるインターナショナルセーフスクール認証を受けたことは、皆さまとともに取り組んだ大きな活動の成果であり、本当によかったと思っています。

私は、現場主義を前提に、困難な課題を乗り越える「勇気」と与えられた業務を確実に最後までやり遂げる「責任」を市職員に求め、今までの当たり前を見直し、まちづくりの主役は市民の皆さまであることを常に念頭においています。

さて、新年にあたり、この1年取り組むべき施策を述べたいと思います。まず、「秩父に住んで働こう！」を合言葉に産業の育成や地元企業の支援に積極的に取り組んでいる実践型雇用創造事業をさらに推進し、行政と企業がタッグを組みながら若者の定住を促進して

まいります。遊休農地の解消や計画的効率的な森林施業の推進、外国人誘客と教育旅行の受け入れ、地域ブランドへの支援により、アニメやジオパークといった新しい風の吹き始めた、秩父観光を大きく飛躍させたいと思っています。

また、皆さまが安心して住み続けられるよう地域包括ケアシステムを推進し、「地域完結型福祉」を実現します。産科医療につきましても、維持充実に努めており、里帰り出産の受け入れもできるように努めてまいりました。その他にも、都市部の元気な高齢者に移住などで秩父へ来ていただき、生涯活躍ができる「秩父版CCRC」のまちづくりの実現を豊島区とともに進めてまいります。

さらに、写真にも写っている大滝地区にて、新大橋の完成や旧大滝中学校の活用などにより、生活に必要なサービスや暮らしを守る「小さな拠点（コンパクトシティ）」を形成したいと考えています。

そのほか、将来の秩父市を担う子どもたちの基礎学力の向上は喫緊の課題と考えています。そのため、新しい教育委員会制度のもと、私が積極的に教育委員会にも関わりながら総合教育会議を充実させ、英語学習の強化や、ICTを活用した教育機器の導入などを行い、ふるさと秩父を大切にする、郷土愛醸成に向けた教育に力を入れていきたいと考えています。

今年、市長として2期目の最終年度ともなります。4月の秩父広域水道事業のスタートからはじまり、新火葬場、そして秩父宮記念市民会館・市役所本庁舎が完成します。これらは、これからの50年、100年を見据えた大きなプロジェクトです。将来に向けた秩父の基盤づくりに結果を出し、次のステップに向けて全力を尽くし、前進、飛躍してまいります。

どうぞ、本年も市政に対する変わらぬご理解、ご協力を賜りますとともに、市民の皆さまにとつて輝かしい年となりますことを心からお祈りいたしまして、年頭にあたってのごあいさついたします。

